

取組概要

2021年度から本事業では福島県浪江町を拠点として、本学の建学の理念である“人物を畑に還す”に則って、基幹産業である農業分野のみならず、商工業分野の担い手育成に向けた教育研究プログラムを、『**インターンシップ型農業・農村総合活性化戦略プロジェクト**』として、連携協定を締結している浪江町・(株)舞台ファームの協力を得ながら、本学の3キャンパス（世田谷・厚木・オホーツク）の大学生・大学院生を中心に展開する。

これによって浪江町の復興支援活動に参画し、将来的な交流人口・関係人口として期待できる「**復興支援サポーター**」を年間20名輩出し、浪江町への**新規就農や地域企業等への就職**による人材定着につなげる。

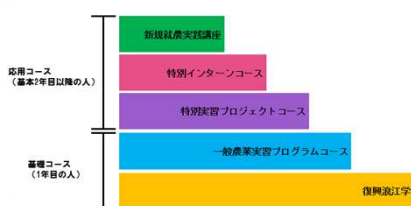
さらには、農業生産の拡大・振興および地域資源を活用した商品提案等によって、農業以外の関連産業との連携をも強化し、震災復興と地域経済全体の活性化を目指している。

2023年度からは浪江町に隣接する**双葉町**の農業支援に向けた基礎調査に着手し、将来的には沿岸地域の自治体との連携により、農業分野の担い手育成を中心とする課題解決に寄与していくことを目的としている。

これまでの成果

第1に、**インターンシップ型教育プログラムの構築**である。これまでに取り組んできた各種の取り組みを、基礎コースとしての「復興浪江学」、「一般農業実習プログラム」コース、応用コースとしての「特別実習プロジェクト」コース、「特別インターン」コース、「新規就農実践講座」を配置し、「学生プロジェクト」は基礎・応用コースに取り組む学生の中から有志で組織して学園祭や各種イベントに参加する形式を整えることによって、プログラムを段階的に学ぶ体系性を構築できた。

第2に、**各種の教育プログラムの展開**である。「復興浪江学」は、活動の広報・宣伝に向けた基礎的な講座を実施したり、地域の主力産品である米の需要創造に向けたライスパック工場見学を実施するなどして学生のアイデアを盛り込んだ展開となっている。



これまでの活動や昨年度のアンケート結果を受け、基礎コースは伝承館など東日本大震災の状況を学び、かつ初歩的な農作業を経験できるようにコースを設定し、その他の応用コースとして段階的に学べる形に修正し、継続した学びにつなげるプログラムとした



一般農業実習プログラムコース「浪江復興米」の田植え作業の様子（2025年5月18日：南棚塩地区）圃場は福島舞台ファーム(株)の協力により、圃場を使用している



2024年12月の実習では双葉町を訪れ町役場の職員から復興への説明を受けた（2024年12月15日：双葉町産業交流センターなど町内視察）



町民と開発した商品の都内での宣伝や、大学でのパンの販売など積極的に行なった。また、町内での報告会などにも参加した。

今後の展開

本事業終了時点では、浪江町および沿岸地域への新規就農および地域企業等への就職実績として、5年間で9名の人材定着と「復興支援サポーター」を100名輩出することを目指している。2024年には浪江町の地域おこし協力隊として就職した卒業生は1名おり、「復興支援サポーター」は4年間で114名となっている。地域の人材定着に向けて、地方自治体や関連する地域企業との連携や特別インターンを精力的に取り組みながら目標達成を目指したい。「復興支援サポーター」の育成は順調に推移しており、交流人口・関係人口の拡大に向けて目標達成は可能とみている。

地域活性化に向けては、地域の特産品を活用した商品開発への支援を行っており、「浪江復興米」のパッケージデザインの開発や浪江町のいちじく生産組合、ニンニク農家等と連携した商品開発の取り組みを通じて一定の成果を生み出している。今後はさらなる地域企業との連携や専門家等との連携のもと、商品開発支援やイベント企画等を通じて事業の成果を高めていきたい。



弘前大学との共同実習の様子



浪江での活動成果報告会



農大の学園祭では優良店に選ばれた



町内の事業者との協働



町民との交流から学ぶ